

令和4年6月23日

【照会先】

政策統括官付参事官付雇用・賃金福祉統計室

統計管理官 野口 智明

室長 補佐 野仲 さゆり

労働経済第一係

(代表電話) 03(5253)1111 (内線 7622)

(直通電話) 03(3595)3145

労働経済動向調査（令和4年5月）の概況

目 次

I	調査の概要	1 ページ
II	主な用語の説明	2 ページ
III	利用上の注意	3 ページ
IV	結果の概要	
1	生産・売上額等、所定外労働時間、雇用の状況	5 ページ
2	労働者の過不足状況	9 ページ
3	未充足求人の状況	10 ページ
4	雇用調整等の措置状況	10 ページ
5	中途採用	11 ページ
6	令和5年新規学卒者の採用計画等	12 ページ
V	統計図表	13 ページ
VI	付属統計表	17 ページ
VII	【参考表】地区別労働者の過不足状況	24 ページ

労働経済動向調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。

アドレス (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/43-1.html>)

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、景気の変動が雇用等に及ぼしている影響や今後の見通し等について調査し、労働経済の変化や問題点を把握するため、2月、5月、8月及び11月の四半期ごとに実施している。

2 調査の地域

全国

3 調査の対象期日及び実施期間

令和4年5月1日現在の状況について、令和4年5月1日～5月15日に実施した。

4 調査の対象

日本標準産業分類（平成25年10月改定）の建設業、製造業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業（学術研究のうち、学術・開発研究機関を除く）、宿泊業、飲食サービス業（飲食サービス業のうち、バー、キャバレー、ナイトクラブを除く。）、生活関連サービス業、娯楽業（生活関連サービス業のうち、家事サービス業、火葬・墓地管理業及び冠婚葬祭業を除く）、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）（政治・経済・文化団体、宗教、その他のサービス業及び外国公務を除く）に属する、30人以上の常用労働者を雇用する全国の民営事業所を調査の対象とし、5,780事業所を調査の客体とした。（調査票回収数2,888事業所、有効回答数2,827事業所、有効回答率48.9%）

5 調査事項

- ・ 定例項目（調査期共通事項）
 - 事業所の属性に関する事項
 - 生産・売上等の動向と増減（見込）理由に関する事項
 - 雇用、労働時間の動向に関する事項
 - 常用労働者数、労働者の過不足感及び未充足求人数に関する事項
 - 雇用調整等の実施状況に関する事項
- ・ 特別項目（調査期ごとに異なる事項）
 - 令和5年新規学卒者の採用計画等（令和4年5月1日現在）に関する事項

6 調査の方法

厚生労働省が郵送により調査票を配布・回収した。また、インターネットを利用したオンライン報告方式を併用している。

7 集計・推計の方法

産業ごとに復元倍率を算出し、復元倍率を用いて集計した結果から構成比等を算出した。なお、集計・推計は厚生労働省で行った。

II 主な用語の説明

1 労働者

- ① 常用労働者… 次のいずれかに該当する労働者をいう。なお、下記②～④は常用労働者の内数であるが、⑤の派遣労働者は含まない。
- ・ 期間を定めずに雇われている者
 - ・ 1か月以上の期間を定めて雇われている者
- (注) 平成30年2月調査から下線部分の定義を変更し、「1か月を超える期間を定めて雇われている者」から「1か月以上の期間を定めて雇われている者」に変更した。また、「日々又は1か月以内の期間を定めて雇われている者で、前2か月それぞれに18日以上雇われた者」は削除した。
- ② 正社員等…… 雇用期間を定めないで雇用されている者又は1年以上の期間の雇用契約を結んで雇用されている者をいい、下記④のパートタイムは除く。
- なお、下記⑤の派遣労働者は含まない。
- (注) 平成20年2月調査から下線部分の追加により定義を変更し、併せて名称を「常用」から「正社員等」に変更した。
- ③ 臨時…… 1か月以上1年未満の期間を定めて雇用されている者及び期間を限って季節的に働いている者をいい、下記④のパートタイムは除く。
- (注) 平成20年2月調査から下線部分の追加により定義を変更した。
- ④ パートタイム… 1日の所定労働時間又は1週間の所定労働日数が当該事業所の正社員のそれより短い者をいう。
- (注) 平成20年2月調査から下線部分を「一般労働者」から「正社員」に変更した。
- ⑤ 派遣労働者… 労働者派遣法に基づいて他社（派遣元事業所）から当該事業所に派遣されている者をいう。

2 D. I.

Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、変化の方向性を表す指標である（具体的な定義については、下記①～④を参照）。

- ① 生産・売上額等判断D. I.
製造業では生産額、金融業、保険業では経常利益、それ以外の産業では売上高（収入金額）について、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合（%、以下同じ）から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値をいう。
- ② 所定外労働時間判断D. I.
所定外労働時間について、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値をいう。
- ③ 雇用判断D. I.（正社員等雇用、パートタイム雇用など）
労働者数について、当該期間末を前期間末と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値をいう。
- ④ 労働者過不足判断D. I.
労働者数について、調査日現在の状況で「不足（やや不足、おおいに不足）」と回答した事業所の割合から「過剰（やや過剰、おおいに過剰）」と回答した事業所の割合を差し引いた値をいう。

3 未充足求人

事業所において、仕事があるにもかかわらず、その仕事に従事する人がいない（欠員）状態を補充するために行っている求人をいい、求人の方法は問わない。

- ・ 欠員率

常用労働者に対する未充足求人割合をいい、次式により算出。

$$\text{欠員率} = \frac{\text{未充足求人数}}{\text{常用労働者数}} \times 100 (\%)$$

Ⅲ 利用上の注意

- 1 令和3年2月調査実施時に客体事業所の抽出替えを行った。
- 2 平成27年2月調査から会社以外の法人（信用金庫、一般財団法人、病院等）も調査対象とした。会社以外の法人が調査対象事業所に占める割合（平成27年2月調査時）は9.4%で「医療、福祉」、「金融業、保険業」、「学術研究、専門・技術サービス業」においては、それぞれ、91.0%、13.1%、12.2%と高くなっている。平成26年11月調査以前の結果との比較には注意を要する。
- 3 平成30年2月調査より第13回改定日本標準産業分類（平成25年10月改定）により結果表章を行っている。
また、平成21年2月調査から平成29年11月調査まで第12回改定日本標準産業分類（平成19年11月改定）により結果表章を行っていること、及び、調査対象産業に「医療、福祉」を追加したことにより、平成20年11月調査以前との比較には注意を要する。
- 4 労働者の職種については、日本標準職業分類を参考とした独自の分類のほか、職務や技能の習熟度による分類を使用している。日本標準職業分類の設定（平成21年12月）に伴い、平成23年2月調査から職種の見直しを行った。
- 5 雇用調整等の実施状況に関する事項については、回答していない事業所は「実施していない又は予定がない」と回答したとみなして集計している。
雇用調整等の措置については、「雇用調整」と「その他の措置」に分けて集計している。「雇用調整」には平成25年2月調査から「新規学卒者の採用の抑制・停止」を追加したため、「雇用調整を実施した」の数値を平成24年11月調査以前と比較する際は注意を要する。

・「雇用調整」として集計

残業規制
休日の振替、夏期休暇等の休日・休暇の増加
臨時、パートタイム労働者の再契約停止・解雇
新規学卒者の採用の抑制・停止
中途採用の削減・停止
配置転換
出 向
一時休業（一時帰休）
希望退職者の募集、解雇

・「その他の措置」として集計

所定内労働時間の短縮
賃金等労働費用の削減
下請・外注の削減
派遣労働者の削減

(注) 平成27年2月調査から下線部分を「操業時間・日数」から「所定内労働時間」に変更した。

- 6 この調査では、該当集計項目に回答していない事業所については、一定の回答をしたとみなして集計する（Ⅲ 利用上の注意 5）、当該事業所を除いて集計する、当該事業所を含むすべての事業所について集計するなど集計方法は項目により異なっている。各表の脚注を参照のこと。
- 7 令和3年2月調査より「生産・売上額等」、「所定外労働時間」、「雇用」の判断D. I. の季節調整を、センサス局法X-12-ARIMAの中のX-11オプションSeasonalms3×1からX-11コマンドによる選定結果（Seasonalms=MSR）に変更している。
令和4年2月調査以降に公表の季節調整値は、令和3年11月調査までの結果に基づき過去に遡って改定したため、令和3年11月調査以前の公表値と異なっている。
- 8 雇用判断D. I. は、当該期間末と前期間末の状況を比較したものであるが、その他の判断D. I. との比較から統一した表側を用いている。
- 9 統計表中の「0」は表章単位の2分の1未満の割合を示し、「-」は該当数値がないもの、「△」はマイナス、「・」はあり得ないもの、「…」は調査していないため不明であることを示す。

- 10 構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、計は各項目を足し上げた数値と必ずしも一致しない。
- 11 この調査では、それぞれの回答をした事業所の割合を集計して表章しているが、労働者が多い事業所ほど調査客体として選ばれやすくなっている（労働者数による確率比例抽出）ため、実質的に、事業所の割合というよりも、こうした回答をした事業所で働く労働者の割合に近い。
- 12 用語の「正社員等」の定義の変更により平成20年2月調査から集計対象が一部異なっているため、Ⅴ 統計図表第3図、第5図の平成19年11月調査以前との比較には注意を要する。

IV 結果の概要

1 生産・売上額等、所定外労働時間、雇用の状況

(1) 生産・売上額等

生産・売上額等判断D. I. (令和4年4～6月期実績見込)は、調査産業計で11ポイントとなった。産業別にみると、「宿泊業、飲食サービス業」30ポイント、「製造業」17ポイント、「情報通信業」15ポイントなどでプラスとなる一方、「学術研究、専門・技術サービス業」マイナス5ポイント、「金融業、保険業」マイナス4ポイントなどでマイナスとなった。

生産・売上額等判断D. I. (令和4年7～9月期見込)は、調査産業計で5ポイントとなった。産業別にみると、「宿泊業、飲食サービス業」24ポイント、「製造業」10ポイント、「情報通信業」10ポイントなどでプラスとなる一方、「生活関連サービス業、娯楽業」マイナス3ポイント、「金融業、保険業」マイナス1ポイントでマイナスとなった。(表1、第1図、付属統計表第2表)

表1 産業別生産・売上額等判断D. I. (季節調整値)

(「増加」-「減少」, 単位:ポイント)

期 間	調査産業計			建設業			製造業			情報通信業			運輸業, 郵便業		
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績
3 4～6	△ 1	3	8	△ 6	5	11	1	11	16	15	15	6	△ 4	3	9
7～9	2	1	△ 2	△ 3	△ 6	△ 3	7	4	△ 2	5	5	10	4	1	△ 1
10～12	5	△ 1	7	△ 4	△ 9	9	9	△ 1	7	7	△ 1	11	2	6	20
4 1～3	3	0	4	0	△ 5	△ 12	6	11	13	9	0	12	△ 4	2	1
4～6	9	11		1	9		15	17		16	15		15	14	
7～9	5			5			10			10			9		

期 間	卸売業, 小売業			金融業, 保険業			不動産業, 物品賃貸業			学術研究, 専門・技術サービス業			宿泊業, 飲食サービス業		
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績
3 4～6	△ 4	△ 1	16	4	2	3	△ 13	1	9	△ 8	△ 10	0	△ 5	△ 37	△ 21
7～9	△ 1	△ 2	△ 8	3	△ 1	△ 12	10	△ 7	△ 19	5	8	9	2	0	△ 9
10～12	3	△ 3	5	△ 2	0	△ 5	2	1	13	6	3	23	8	24	48
4 1～3	6	△ 1	10	△ 7	2	0	4	2	14	7	10	0	12	△ 27	△ 15
4～6	6	6		10	△ 4		1	2		△ 8	△ 5		△ 6	30	
7～9	3			△ 1			8			6			24		

期 間	生活関連サービス業, 娯楽業			医療, 福祉			サービス業 (他に分類されないもの)		
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績
3 4～6	△ 21	△ 18	△ 10	△ 3	7	5	△ 5	5	5
7～9	△ 3	3	△ 16	2	△ 2	△ 3	△ 5	6	2
10～12	15	15	31	2	△ 10	△ 7	5	△ 10	△ 3
4 1～3	9	4	14	△ 5	△ 5	△ 4	8	△ 13	3
4～6	5	△ 2		4	5		△ 2	10	
7～9	△ 3			0			2		

注: 無回答を除いて集計している。

(2) 所定外労働時間

所定外労働時間判断D. I. (令和4年4～6月期実績見込) は、調査産業計で7ポイントとなった。産業別にみると、「宿泊業、飲食サービス業」30ポイント、「建設業」11ポイント、「製造業」11ポイント、「サービス業(他に分類されないもの)」11ポイントなどでプラスとなる一方、「生活関連サービス業、娯楽業」マイナス3ポイント、「卸売業、小売業」マイナス1ポイント、「不動産業、物品賃貸業」マイナス1ポイントでマイナスとなった。

所定外労働時間判断D. I. (令和4年7～9月期見込) は、調査産業計で4ポイントとなった。産業別にみると、「学術研究、専門・技術サービス業」11ポイント、「製造業」9ポイントなどでプラスとなる一方、「医療、福祉」マイナス3ポイントなどでマイナスとなった。

(表2、第2図、付属統計表第2表)

表2 産業別所定外労働時間判断D. I. (季節調整値)

(「増加」-「減少」, 単位:ポイント)

期 間	調査産業計			建設業			製造業			情報通信業			運輸業、郵便業							
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績					
3 4～6	△	1	4	8	2	5	10	3	8	17	2	△	4	3	△	5	5	9		
			4	3	1	5	△	2	4	8	6	3	8	10	13	1	1	△	4	
			5	△	2	7	2	△	6	3	7	△	2	8	8	1	12	5	△	1
4 1～3			2	6	9	2	0	△	2	4	7	10	8	△	3	3	△	4	5	2
			6	△	7	1	11			9	11		△	4	6		6	8		
			4			5				9			8				8			

期 間	卸売業、小売業			金融業、保険業			不動産業、物品賃貸業			学術研究、専門・技術サービス業			宿泊業、飲食サービス業									
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績							
3 4～6	△	6	△	2	11	2	△	1	1	0	△	7	8	1	1	4	△	11	△	16	△	20
			5	1	1	1	0	2	0	5	1	1	8	5	5	0	△	10				
			5	△	4	5	3	6	8	1	3	1	5	4	9	△	5	10				
4 1～3			11	7	11	△	6	△	2	3	12	△	1	4	12	23	14	12	△	5	△	2
			4	△	1	7	3			0	△	1		0	5		△	2	30			
			6			△	2			△	1		11		△	2		△	2			

期 間	生活関連サービス業、娯楽業			医療、福祉			サービス業(他に分類されないもの)							
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績					
3 4～6	△	21	△	19	△	1	0	8	7	2	6	10		
			4	△	5	△	6	3	5	5	2	2	△	1
			6	8	14	△	3	1	0	6	△	3	1	
4 1～3			1	6	17	△	2	11	19	4	△	2	△	3
			1	△	3	1	1			13	11			
			△	2		△	3			1				

注: 無回答を除いて集計している。

(3) 正社員等雇用

正社員等雇用判断D. I. (令和4年4～6月期実績見込) は、調査産業計で1ポイントとなった。産業別にみると、「サービス業 (他に分類されないもの)」15ポイント、「学術研究, 専門・技術サービス業」10ポイントなどでプラスとなる一方、「医療, 福祉」マイナス9ポイント、「情報通信業」マイナス6ポイントなどでマイナスとなった。

正社員等雇用判断D. I. (令和4年7～9月期見込) は、調査産業計で7ポイントとなった。産業別にみると、「情報通信業」16ポイント、「学術研究, 専門・技術サービス業」14ポイント、「製造業」13ポイントなどでプラスとなった。(表3、第3図、付属統計表第2表)

表3 産業別正社員等雇用判断D. I. (季節調整値)

(「増加」-「減少」, 単位:ポイント)

期 間	調査産業計			建設業			製造業			情報通信業			運輸業, 郵便業												
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績										
3 4～6	△	2	△	3	△	10	5	9	3	0	1	△	3	△	2	△	1	△	9	△	3	△	6	△	15
		7		3	△	2	8	10	1	10	6	△	3	11	2	4	1	2	△	5					
		5		5	△	4	8	9	△	3	8	8	△	4	12	11	2	9	8	△	11				
4 1～3	7		3	△	4	6	2	3	9	6	△	5	13	3	2	5	1	△	7						
	4～6	3		1		10	6		8	6			1	△	6		△	3	△	1					
	7～9	7				6			13				16				6								

期 間	卸売業, 小売業			金融業, 保険業			不動産業, 物品賃貸業			学術研究, 専門・技術サービス業			宿泊業, 飲食サービス業												
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績										
3 4～6	△	6	△	7	△	5	5	1	△	4	7	12	7	8	5	0	△	9	△	9	△	12			
		1		1	△	3	3	△	1	6	13	7	4	10	8	0	3	△	6	△	9				
		3		△	1	△	5	1	2	△	6	9	2	8	9	7	5	△	2	△	7	△	1		
4 1～3	5		2	△	2	3	△	1	△	13	5	6	6	6	5	△	1	0	0	△	12				
	4～6	△	5	△	4	△	5	△	3	15	4		9	10			5	1							
	7～9	3				0				10			14				4								

期 間	生活関連サービス業, 娯楽業			医療, 福祉			サービス業 (他に分類されないもの)								
	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績	見込	実績見込	実績						
3 4～6	0	△	6	△	11	△	5	△	9	△	19	7	10	1	
		4		0	△	2	6	△	3	△	4	8	12	△	3
		5		1	△	6	5	2	0	8	2	△	2		
4 1～3	1		5	△	8	6	3	△	10	5	△	1	△	4	
	4～6	2		5		4	△	9		11	15				
	7～9	0				1			8						

注: 無回答を除いて集計している。

(4) パートタイム雇用

パートタイム雇用判断D. I. (令和4年4～6月期実績見込) は、調査産業計でマイナス1ポイントとなった。産業別にみると、「不動産業、物品賃貸業」マイナス5ポイント、「卸売業、小売業」マイナス4ポイント、「生活関連サービス業、娯楽業」マイナス4ポイントなどでマイナスとなる一方、「宿泊業、飲食サービス業」11ポイント、「学術研究、専門・技術サービス業」8ポイントなどでプラスとなった。

パートタイム雇用判断D. I. (令和4年7～9月期見込) は、調査産業計で2ポイントとなった。産業別にみると、「宿泊業、飲食サービス業」12ポイント、「生活関連サービス業、娯楽業」7ポイントなどでプラスとなる一方、「金融保険業」マイナス3ポイント、「サービス業(他に分類されないもの)」マイナス1ポイントでマイナスとなった。

(表4、第4図、付属統計表第2表)

表4 産業別パートタイム雇用判断D. I. (季節調整値)

(「増加」-「減少」, 単位: ポイント)

期 間	調査産業計			建設業			製造業			情報通信業			運輸業, 郵便業			
	年 月 (令和)	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績
3	4～6	△ 1	0	△ 3	△ 2	△ 1	0	△ 1	3	△ 3	△ 3	△ 2	7	△ 6	3	△ 2
	7～9	1	0	△ 2	0	△ 1	△ 3	0	0	△ 1	△ 1	△ 2	△ 1	△ 1	△ 5	△ 11
	10～12	0	1	△ 3	△ 1	△ 2	△ 7	1	0	△ 2	1	2	△ 8	0	0	△ 2
4	1～3	2	2	△ 3	△ 3	3	△ 6	1	2	△ 2	△ 3	△ 1	0	△ 2	2	△ 7
	4～6	△ 1	△ 1		△ 4	△ 1		△ 2	1		△ 4	4		△ 2	0	
	7～9	2			0			2			2			0		

期 間	卸売業, 小売業			金融業, 保険業			不動産業, 物品賃貸業			学術研究, 専門・技術サービス業			宿泊業, 飲食サービス業			
	年 月 (令和)	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績
3	4～6	0	0	△ 3	△ 1	△ 2	△ 7	△ 5	△ 4	△ 4	1	△ 1	1	△ 7	3	△ 12
	7～9	3	3	△ 4	△ 1	0	1	△ 2	△ 1	2	△ 1	0	△ 5	2	1	△ 8
	10～12	1	0	△ 5	1	0	△ 9	△ 1	6	2	0	△ 4	△ 1	0	11	△ 10
4	1～3	7	6	△ 2	△ 1	1	△ 7	△ 1	0	△ 1	0	2	3	14	10	4
	4～6	0	△ 4		△ 6	0		3	△ 5		△ 4	8		1	11	
	7～9	1			△ 3			1			4			12		

期 間	生活関連サービス業, 娯楽業			医療, 福祉			サービス業 (他に分類されないもの)			
	年 月 (令和)	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績
3	4～6	△ 6	△ 3	△ 2	△ 1	△ 2	△ 5	1	2	0
	7～9	1	△ 1	△ 2	1	△ 1	3	0	△ 3	△ 2
	10～12	3	△ 1	1	2	△ 1	0	△ 4	1	2
4	1～3	4	4	△ 5	1	4	1	4	△ 2	△ 6
	4～6	0	△ 4		△ 2	0		△ 2	4	
	7～9	7			1			△ 1		

注: 無回答を除いて集計している。

2 労働者の過不足状況

(1) 正社員等労働者

令和4年5月1日現在の正社員等労働者過不足判断D. I. をみると、調査産業計で37ポイントと、平成23年8月調査から44期連続して不足超過となった。特に「医療、福祉」、「建設業」、「運輸業、郵便業」で人手不足感が高い。(表5、第5図、付属統計表第3-1表)

表5 産業別正社員等労働者過不足状況と労働者過不足判断D. I.

(「不足」-「過剰」, 単位: %, ポイント)

産 業	令和3年11月調査 1)			令和4年2月調査 1)			令和4年5月調査 1)		
	不足	過剰	D.I.	不足	過剰	D.I.	不足	過剰	D.I.
調 査 産 業 計	38	5	33	43	4	39	41	4	37
建 設 業	53	0	53	54	1	53	50	1	49
製 造 業	37	5	32	46	4	42	42	5	37
情 報 通 信 業	45	2	43	43	2	41	44	2	42
運 輸 業 , 郵 便 業	47	5	42	55	4	51	50	2	48
卸 売 業 , 小 売 業	21	7	14	24	6	18	22	5	17
金 融 業 , 保 険 業	14	1	13	11	1	10	12	2	10
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	27	3	24	33	3	30	30	3	27
学 術 研 究 , 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	40	4	36	44	1	43	45	1	44
宿 泊 業 , 飲 食 サ ー ビ ス 業	27	7	20	23	4	19	28	5	23
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 , 娯 楽 業	37	7	30	39	5	34	34	7	27
医 療 , 福 祉	53	4	49	58	3	55	55	2	53
サ ー ビ ス 業 (他 に 分 類 さ れ な い も の)	34	6	28	35	2	33	39	4	35

注: 無回答を除いて集計している。

1) 11月調査は11月1日現在、2月調査は2月1日現在、5月調査は5月1日現在の状況である。

(2) パートタイム労働者

令和4年5月1日現在のパートタイム労働者過不足判断D. I. をみると、調査産業計で28ポイントと、平成21年11月調査から51期連続して不足超過となった。特に「宿泊業、飲食サービス業」、「サービス業(他に分類されないもの)」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「医療、福祉」などで人手不足感が高い。

(表6、第5図、付属統計表第3-1表)

表6 産業別パートタイム労働者過不足状況と労働者過不足判断D. I.

(「不足」-「過剰」, 単位: %, ポイント)

産 業	令和3年11月調査 1)			令和4年2月調査 1)			令和4年5月調査 1)		
	不足	過剰	D.I.	不足	過剰	D.I.	不足	過剰	D.I.
調 査 産 業 計	27	3	24	29	3	26	30	2	28
建 設 業	6	-	6	10	-	10	6	1	5
製 造 業	19	2	17	21	2	19	21	2	19
情 報 通 信 業	8	1	7	8	2	6	9	1	8
運 輸 業 , 郵 便 業	27	5	22	28	4	24	33	2	31
卸 売 業 , 小 売 業	33	3	30	37	3	34	34	1	33
金 融 業 , 保 険 業	7	1	6	6	1	5	8	1	7
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	12	1	11	21	2	19	16	3	13
学 術 研 究 , 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	9	2	7	8	2	6	9	1	8
宿 泊 業 , 飲 食 サ ー ビ ス 業	45	6	39	52	3	49	53	3	50
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 , 娯 楽 業	45	5	40	45	5	40	42	7	35
医 療 , 福 祉	30	4	26	32	4	28	37	2	35
サ ー ビ ス 業 (他 に 分 類 さ れ な い も の)	36	1	35	36	-	36	45	2	43

注: 無回答を除いて集計している。

1) 11月調査は11月1日現在、2月調査は2月1日現在、5月調査は5月1日現在の状況である。

3 未充足求人状況

(1) 産業別未充足求人の有無

令和4年5月1日現在の未充足求人がある事業所の割合は、調査産業計で54%となった。産業別にみると「医療、福祉」69%、「サービス業（他に分類されないもの）」64%などとなった。（表7）

(2) 産業別欠員率

令和4年5月1日現在の欠員率は、調査産業計で2.9%となった（表7、付属統計表第4表）。

表7 産業別未充足求人の有無別事業所割合及び産業別欠員率
(令和4年5月1日現在)

(単位:%)

産 業	計	未充足求人 1)		欠員率 2)
		あり	なし	
調 査 産 業 計	100	54	46	2.9
建 設 業	100	44	56	2.9
製 造 業	100	53	47	2.0
情 報 通 信 業	100	39	61	2.1
運 輸 業 , 郵 便 業	100	59	41	4.2
卸 売 業 , 小 売 業	100	46	54	2.0
金 融 業 , 保 険 業	100	13	87	0.5
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	100	34	66	1.4
学 術 研 究 , 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	100	41	59	1.9
宿 泊 業 , 飲 食 サ ー ビ ス 業	100	62	38	4.6
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 , 娯 楽 業	100	48	52	3.0
医 療 , 福 祉	100	69	31	2.9
サ ー ビ ス 業 (他 に 分 類 さ れ な い も の)	100	64	36	5.2

注: 1) 未充足求人の有無別事業所割合は、無回答を除いて集計している。

2) 欠員率は、未充足求人がない事業所も含めて集計している。

4 雇用調整等の措置状況

(1) 実施割合の推移

雇用調整（表9表頭の「残業規制」から「希望退職者の募集、解雇」までの措置）を実施した事業所の割合は、令和4年1～3月期実績で28%となった。前年同期（令和3年1～3月期実績）と比べると5ポイント低下し、前期（令和3年10～12月期実績）と比べると1ポイント上昇した。

（表8、第6図、付属統計表第6表）

表8 産業別雇用調整の実績(予定)のある事業所割合

(単位:%)

産 業	令和3年			令和4年		
	4～6 月期 実績	7～9 月期 実績	10～12 月期 実績	1～3 月期 実績	4～6 月期 予定	7～9 月期 予定
調 査 産 業 計	32 (49)	29 (44)	27 (34)	28 (33)	26 (30)	19 (22)
建 設 業	27 (35)	25 (28)	24 (26)	25 (23)	27 (23)	21 (17)
製 造 業	36 (64)	35 (55)	33 (45)	31 (37)	29 (33)	21 (24)
情 報 通 信 業	25 (37)	26 (30)	34 (27)	28 (28)	27 (30)	21 (21)
運 輸 業 , 郵 便 業	38 (48)	38 (44)	32 (37)	33 (41)	28 (35)	22 (25)
卸 売 業 , 小 売 業	35 (40)	28 (40)	28 (32)	31 (33)	29 (29)	24 (22)
金 融 業 , 保 険 業	28 (33)	24 (29)	29 (28)	27 (22)	28 (22)	24 (17)
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	30 (46)	31 (35)	33 (33)	29 (39)	29 (30)	24 (26)
学 術 研 究 , 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	37 (45)	29 (44)	32 (37)	28 (35)	33 (32)	21 (26)
宿 泊 業 , 飲 食 サ ー ビ ス 業	37 (64)	38 (55)	24 (36)	32 (37)	23 (31)	12 (24)
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 , 娯 楽 業	44 (64)	35 (39)	28 (36)	31 (39)	26 (33)	22 (20)
医 療 , 福 祉	25 (38)	19 (34)	18 (22)	19 (22)	20 (26)	12 (14)
サ ー ビ ス 業 (他 に 分 類 さ れ な い も の)	23 (49)	25 (47)	21 (32)	22 (40)	20 (33)	15 (28)

注: 表9の表頭の「残業規制」から「希望退職者の募集、解雇」までの措置をいずれか1つ以上実施した又は予定がある事業所の割合である。
() は、前年同期の実績の数値である。ただし、令和4年4～6月期及び7～9月期は、令和3年5月調査時における令和3年4～6月期及び7～9月期の予定である。

無回答を「実施していない又は予定がない」と回答したとみなして集計している。

(2) 実施した措置

令和4年1～3月期に雇用調整を実施した事業所の割合は、調査産業計で28%となった。雇用調整の措置(複数回答)別にみると、調査産業計では多い順に「残業規制」11%、「配置転換」11%、「休日の振替、夏期休暇等の休日・休暇の増加」7%となった。

また、事業活動縮小による雇用調整を実施した事業所の割合は、調査産業計で5%となった。(表9、第6図、付属統計表第6表)

表9 産業別雇用調整等の措置別実施事業所割合(令和4年1～3月期実績)

産業	雇用調整を実施した ¹⁾	雇用調整の措置								
		残業規制	休日の振替、夏期休暇等の休日・休暇の増加	臨時、パートタイム労働者の再契約停止・解雇	新規学卒者の採用の抑制・停止	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業(一時帰休)	希望退職者の募集、解雇
調査産業計	28<5>	11<2>	7<1>	1<0>	2<1>	2<1>	11<1>	5<1>	5<2>	1<0>
建設業	25<2>	11<0>	11<1>	2<0>	-<->	1<->	9<0>	6<->	-<->	-<->
製造業	31<6>	12<3>	7<2>	1<0>	3<1>	2<1>	11<2>	7<1>	8<3>	1<0>
情報通信業	28<4>	4<1>	4<->	-<->	2<1>	1<1>	18<3>	16<2>	1<1>	3<->
運輸業、郵便業	33<8>	14<2>	9<1>	1<1>	3<2>	4<2>	8<2>	3<1>	7<3>	3<0>
卸売業、小売業	31<3>	15<1>	9<0>	1<1>	2<0>	3<1>	4<0>	3<1>	3<1>	0<0>
金融業、保険業	27<->	8<->	4<->	-<->	1<->	1<->	23<->	10<->	-<->	-<->
不動産業、物品賃貸業	29<7>	14<1>	6<->	3<2>	2<2>	1<1>	11<->	9<2>	2<2>	-<->
学術研究、専門・技術サービス業	28<4>	13<3>	5<1>	1<->	2<1>	1<1>	13<2>	7<->	4<3>	2<->
宿泊業、飲食サービス業	32<15>	18<9>	7<4>	2<2>	7<3>	5<4>	6<2>	3<1>	13<7>	-<->
生活関連サービス業、娯楽業	31<10>	12<3>	8<1>	4<1>	2<1>	4<3>	12<1>	6<1>	8<5>	1<->
医療、福祉	19<1>	3<->	4<->	1<0>	-<->	0<0>	13<->	2<->	1<0>	0<->
サービス業(他に分類されないもの)	22<3>	11<1>	8<->	1<->	-<->	1<->	6<1>	1<->	1<1>	1<1>
令和3年10～12月期実績(調査産業計)	27<6>	10<2>	7<1>	1<0>	2<1>	3<1>	10<1>	5<1>	5<3>	1<0>

産業	その他の措置を実施した ²⁾	その他の措置			
		所定内労働時間の短縮	賃金等労働費用の削減	下請・外注の削減	派遣労働者の削減
調査産業計	3<1>	1<0>	1<0>	1<0>	2<1>
建設業	4<1>	1<1>	-<->	2<->	1<->
製造業	3<1>	0<->	0<0>	1<0>	2<1>
情報通信業	1<1>	-<->	-<->	1<1>	1<1>
運輸業、郵便業	6<3>	3<->	3<2>	2<0>	2<1>
卸売業、小売業	3<0>	1<->	1<->	1<0>	2<->
金融業、保険業	1<->	-<->	1<->	-<->	-<->
不動産業、物品賃貸業	1<1>	1<1>	1<1>	-<->	-<->
学術研究、専門・技術サービス業	5<2>	1<1>	2<1>	1<1>	3<->
宿泊業、飲食サービス業	7<6>	3<2>	2<2>	2<2>	2<1>
生活関連サービス業、娯楽業	8<4>	5<3>	4<1>	-<->	1<1>
医療、福祉	1<->	-<->	-<->	-<->	1<->
サービス業(他に分類されないもの)	3<1>	1<->	-<->	-<->	2<1>
令和3年10～12月期実績(調査産業計)	4<1>	1<0>	1<0>	1<0>	2<0>

注：<>は、「事業活動縮小によるもの」の数値である。

無回答を「実施していない又は予定がない」と回答したとみなして集計している。

1) 表頭の「残業規制」から「希望退職者の募集、解雇」までの措置をいずれか1つ以上実施した事業所の割合である。

2) 表頭の「所定内労働時間の短縮」から「派遣労働者の削減」までの措置をいずれか1つ以上実施した事業所の割合である。

5 中途採用

中途採用の実績が「あり」とした事業所の割合(令和4年1～3月期実績)は、調査産業計で60%となり前年同期(令和3年1～3月期実績)と比べると3ポイント上昇した(表10、第7図)。

表10 産業別中途採用の実績(予定)がある事業所割合

産業	(単位:%)						
	令和3年			令和4年			
	4～6月期実績	7～9月期実績	10～12月期実績	1～3月期実績	4～6月期予定	7～9月期予定	
調査産業計	61(61)	56(56)	58(57)	60(57)	62(60)	40(38)	
建設業	50(55)	40(40)	42(42)	35(42)	48(48)	23(23)	
製造業	54(49)	53(44)	56(44)	57(47)	63(53)	38(30)	
情報通信業	58(64)	49(53)	50(46)	60(51)	62(53)	42(43)	
運輸業、郵便業	62(57)	55(50)	53(55)	62(59)	63(60)	43(39)	
卸売業、小売業	55(59)	50(54)	51(54)	56(55)	48(51)	35(37)	
金融業、保険業	57(53)	44(56)	53(56)	54(48)	53(49)	27(30)	
不動産業、物品賃貸業	65(68)	55(55)	56(49)	54(57)	61(61)	40(33)	
学術研究、専門・技術サービス業	52(60)	41(53)	47(51)	53(39)	58(53)	34(25)	
宿泊業、飲食サービス業	60(44)	49(46)	58(56)	66(62)	72(69)	60(58)	
生活関連サービス業、娯楽業	63(47)	55(54)	51(48)	59(52)	57(54)	37(30)	
医療、福祉	78(87)	73(81)	71(76)	74(71)	76(80)	42(49)	
サービス業(他に分類されないもの)	70(63)	62(63)	66(73)	64(70)	67(71)	51(48)	

注：()は、前年同期の実績の数値である。

ただし、令和4年4～6月期及び7～9月期は、令和3年5月調査時における令和3年4～6月期及び7～9月期の予定である。

無回答を除いて集計している。

【ここからは5月調査の特別項目（調査期ごとに異なる項目）となります。】

6 令和5年新規学卒者の採用計画等

(1) 採用計画

令和5年新規学卒者の採用予定者数を令和4年新規学卒者の採用者数に比べて「増加」とする事業所の割合は、高校卒22%、高専・短大卒14%、大学卒(文科系)17%、大学卒(理科系)19%、大学院卒11%、専修学校卒12%となり、各学歴で前年を上回った(表11、第8図、付属統計表第7表)。

「減少」とする事業所の割合は、高校卒2%、高専・短大卒1%、大学卒(文科系)2%、大学卒(理科系)2%、大学院卒1%、専修学校卒1%となった。

各学歴で「増加」とする事業所が「減少」とする事業所を上回った。(表11、付属統計表第7表)

表11 学歴、新規学卒採用予定者数の増減別事業所割合(調査産業計・令和4年5月1日現在)
(令和5年新規学卒者)

(単位:%)

学歴	増加	ほぼ同じ	減少	未定	本社等でしか回答できない
高校卒	22 (19)	26 (24)	2 (5)	30 (33)	19 (20)
高専・短大卒	14 (11)	24 (23)	1 (3)	37 (39)	24 (24)
大学卒 (文科系)	17 (14)	26 (24)	2 (5)	31 (32)	24 (24)
大学卒 (理科系)	19 (16)	25 (25)	2 (4)	30 (31)	23 (24)
大学院卒	11 (9)	21 (21)	1 (2)	40 (42)	27 (27)
専修学校卒	12 (10)	19 (19)	1 (2)	42 (43)	26 (27)

注: 「令和5年新規学卒者」とは、令和5年3月卒業予定者、又は概ね卒業後1年以内の者を令和5年3月卒業予定者とほぼ同等の条件で令和5年度に採用する者をいう。
「令和4年は採用しておらず令和5年も採用しない」及び無回答を除いて集計した。
()は、令和3年5月調査の数値(令和3年5月1日現在)である。

(2) 採用予定者数の増加理由

令和5年新規学卒者の採用予定者数を「増加」とする事業所について、その理由(複数回答2つまで)をみると、各学歴で「長期的に育成することが必要な基幹的業務を担う者の確保」が最も多かった(表12)。

表12 学歴、新規学卒採用予定者数の増加理由別事業所割合(調査産業計・令和4年5月1日現在)
(令和5年新規学卒者)

複数回答2つまで(単位:%)

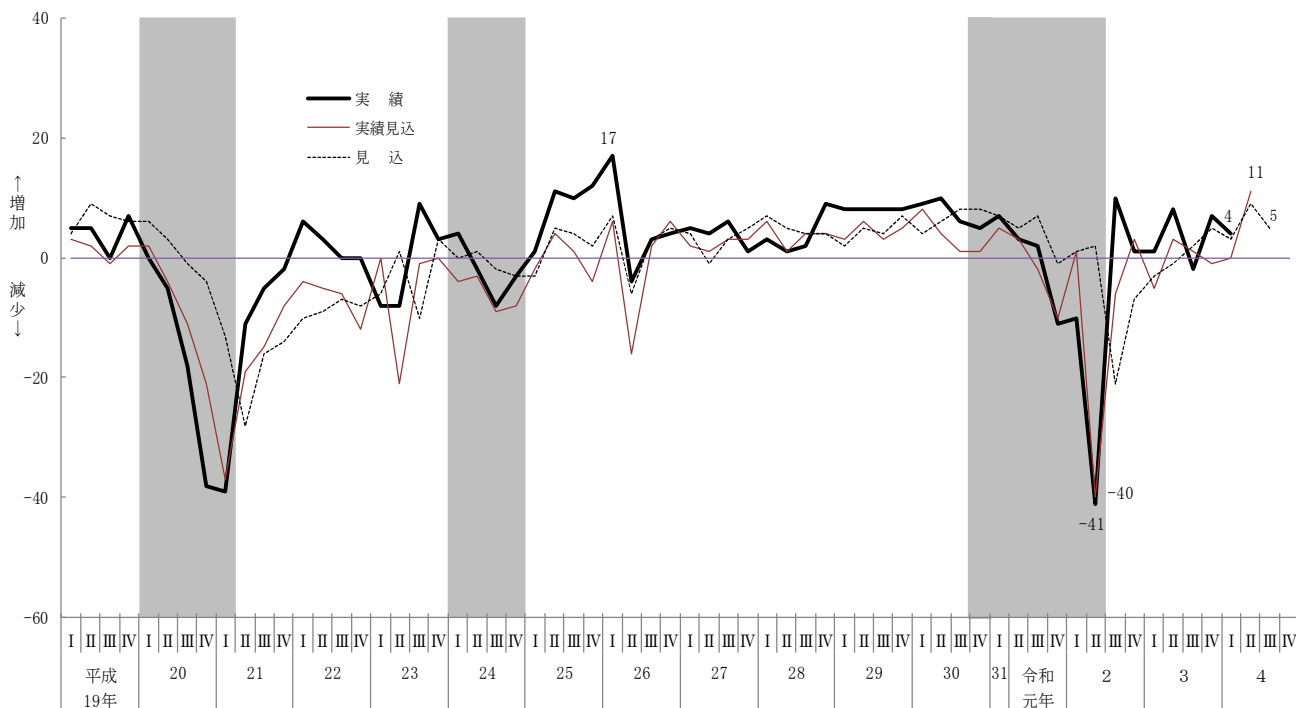
学歴	経営状態の好転・既存事業の拡大・新規事業への進出	技術革新への対応・研究開発体制の充実	販売・営業部門の増強	年齢等人員構成の適正化	退職者の増加による補充	前年(令和4年)は新規学卒者の確保が十分でなかった	長期的に育成することが必要な基幹的業務を担う者の確保	その他	無回答
高校卒	16 (14)	3 (4)	7 (7)	37 (34)	30 (24)	24 (20)	38 (46)	3 (3)	2 (2)
高専・短大卒	17 (17)	8 (9)	8 (9)	23 (22)	24 (18)	16 (25)	37 (38)	4 (2)	13 (12)
大学卒 (文科系)	23 (22)	2 (5)	22 (18)	24 (22)	26 (16)	18 (22)	39 (41)	3 (4)	4 (4)
大学卒 (理科系)	20 (22)	17 (19)	9 (7)	21 (20)	23 (15)	23 (24)	42 (40)	2 (4)	4 (4)
大学院卒	29 (31)	23 (25)	10 (6)	18 (15)	19 (13)	18 (15)	36 (38)	2 (4)	6 (8)
専修学校卒	16 (17)	5 (7)	7 (7)	19 (20)	28 (29)	26 (19)	35 (42)	3 (1)	10 (11)

注: 数値は表11で「増加」と回答した事業所を100とした割合である。
網掛け部分は各学歴ごとに事業所の割合が最も高くなっているところを示す。
「令和5年新規学卒者」とは、令和5年3月卒業予定者、又は概ね卒業後1年以内の者を令和5年3月卒業予定者とほぼ同等の条件で令和5年度に採用する者をいう。
()は、令和3年5月調査(令和3年5月1日現在)における令和4年新規学卒者の数値である。

V 統計図表

第1図 生産・売上額等判断D.I.の推移（調査産業計・季節調整値）

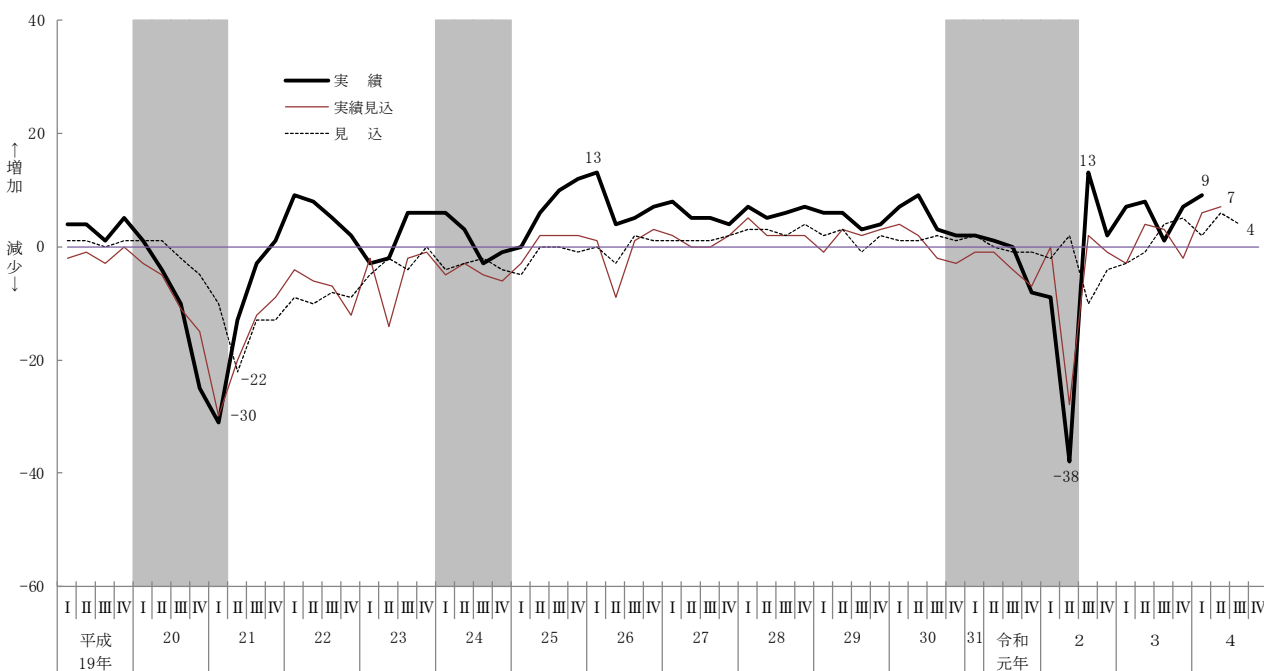
(ポイント[増加(%) - 減少(%)])



注: 「生産・売上額等判断D.I.」とは、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。ローマ数字は四半期（Ⅰ：1～3月、Ⅱ：4～6月、Ⅲ：7～9月、Ⅳ：10～12月）を示す。網掛け部分は内閣府の景気基準日付（四半期基準日付）による景気後退期を示す（平成30年Ⅳ期～令和2年Ⅱ期は、暫定的な景気の山・谷を設定）。無回答を除いた集計による。

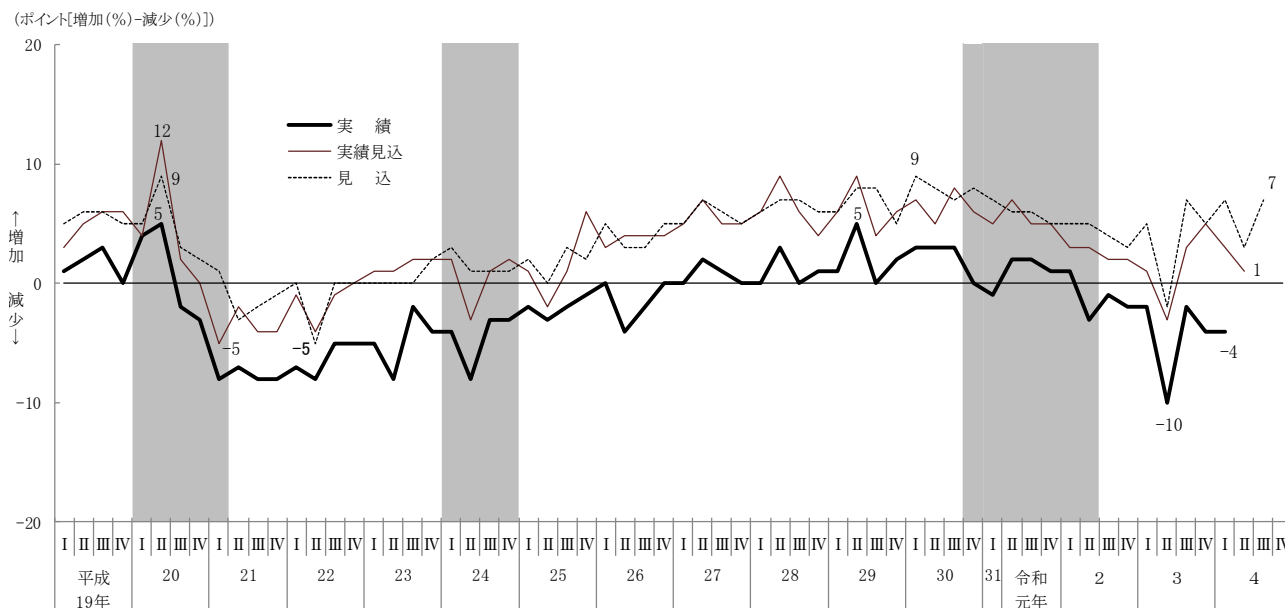
第2図 所定外労働時間判断D.I.の推移（調査産業計・季節調整値）

(ポイント[増加(%) - 減少(%)])



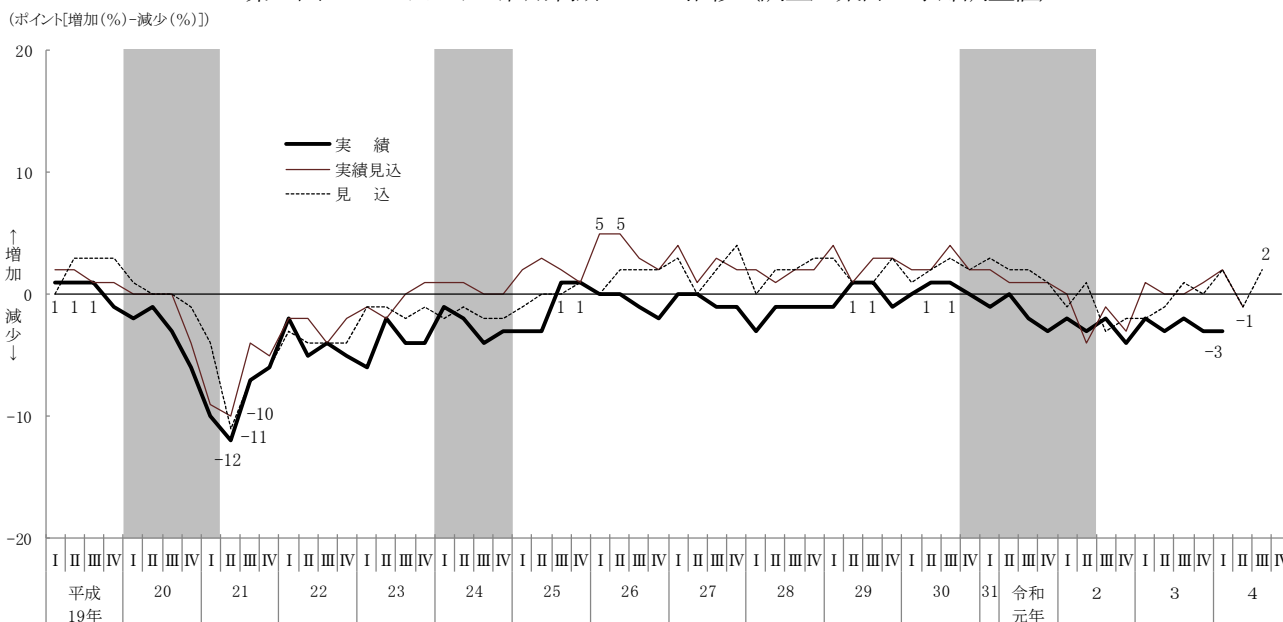
注: 「所定外労働時間判断D.I.」とは、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。ローマ数字は四半期（Ⅰ：1～3月、Ⅱ：4～6月、Ⅲ：7～9月、Ⅳ：10～12月）を示す。網掛け部分は内閣府の景気基準日付（四半期基準日付）による景気後退期を示す（平成30年Ⅳ期～令和2年Ⅱ期は、暫定的な景気の山・谷を設定）。無回答を除いた集計による。

第3図 正社員等雇用判断D.I.の推移（調査産業計・季節調整値）



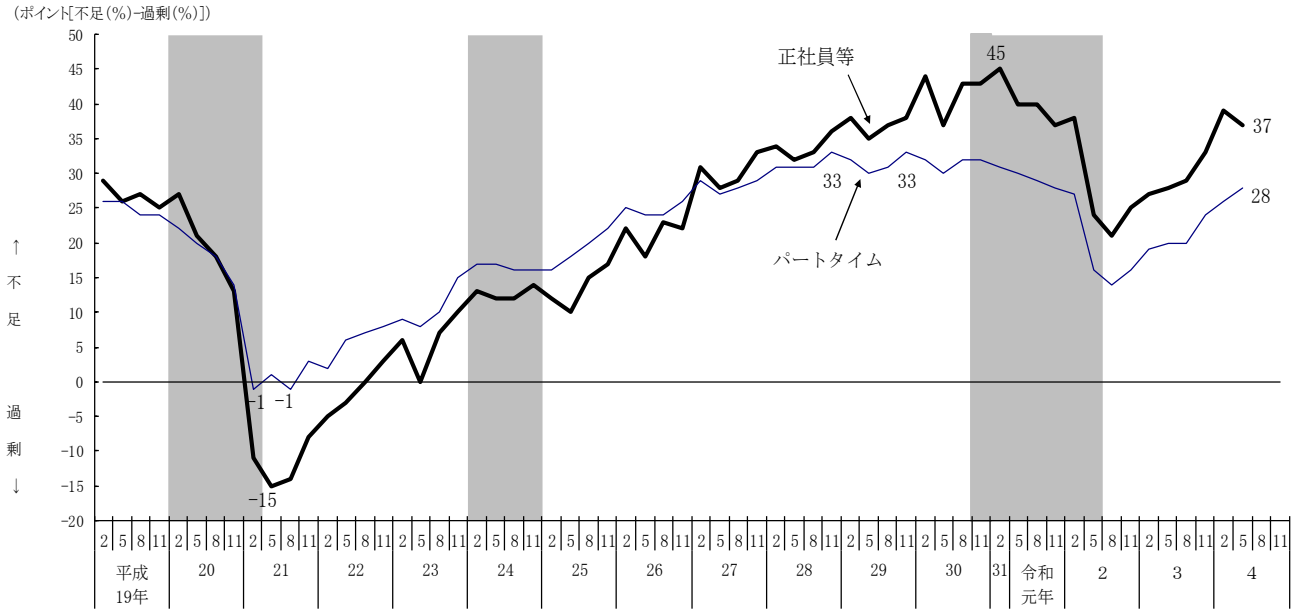
注: 「正社員等」については、平成19年11月調査以前は「常用」として調査していた。そのため、実績は平成19年IV期、実績見込は平成20年I期、見込は平成20年II期以降の数値とは厳密には接続しない。
 *「常用」・・・雇用期間を定めずに雇用されている者をいう。パートタイムは除く。
 「雇用判断D.I.」とは、当該期間末を前期間末と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。ローマ数字は四半期（I:1～3月、II:4～6月、III:7～9月、IV:10～12月）を示す。
 網掛け部分は内閣府の景気基準日付（四半期基準日付）による景気後退期を示す（平成30年IV期～令和2年II期は、暫定的な景気の山・谷を設定）。無回答を除いた集計による。

第4図 パートタイム雇用判断D.I.の推移（調査産業計・季節調整値）



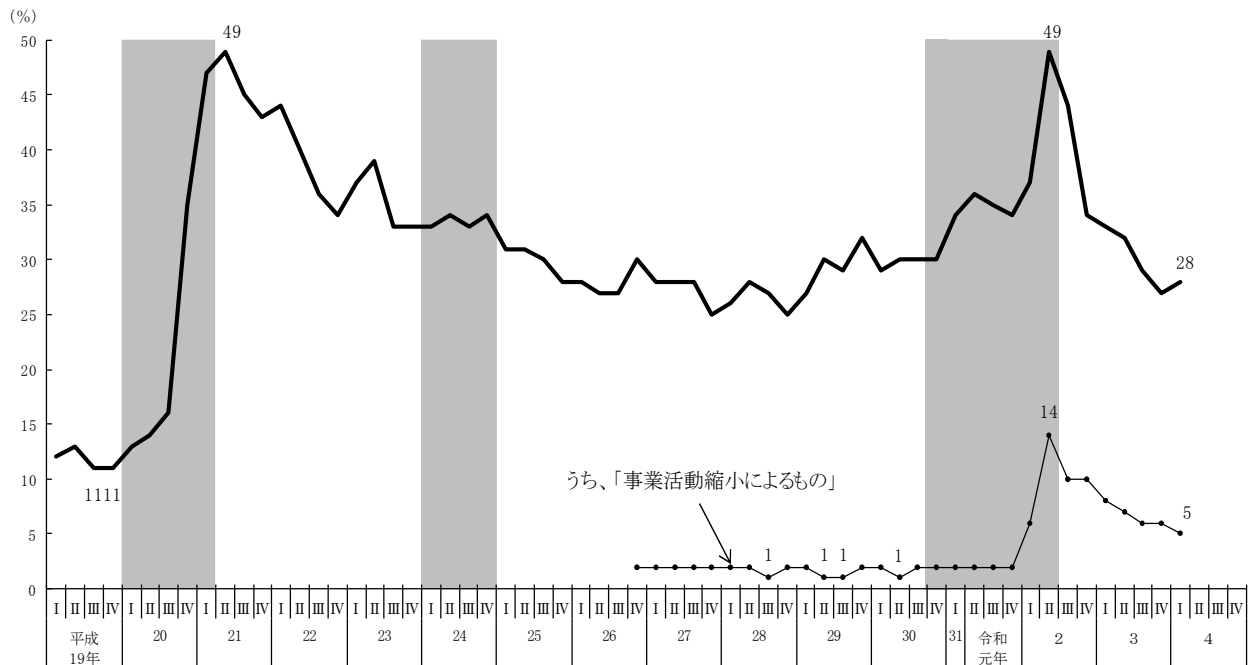
注: 「雇用判断D.I.」とは、当該期間末を前期間末と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。ローマ数字は四半期（I:1～3月、II:4～6月、III:7～9月、IV:10～12月）を示す。
 網掛け部分は内閣府の景気基準日付（四半期基準日付）による景気後退期を示す（平成30年IV期～令和2年II期は、暫定的な景気の山・谷を設定）。無回答を除いた集計による。

第5図 雇用形態別労働者過不足判断D.I.の推移（調査産業計）



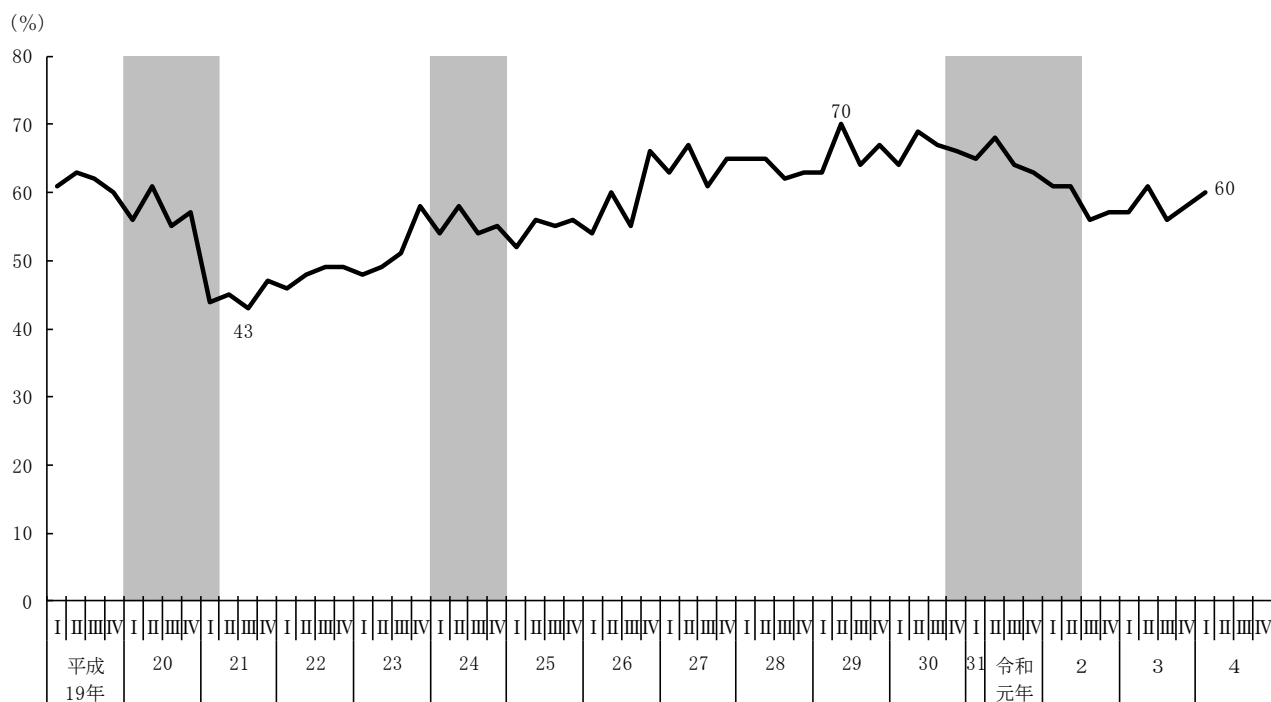
注:「正社員等」については、平成19年11月調査以前は「常用」として調査していたため、平成20年2月調査以降の数値とは厳密には接続しない。
 *「常用」…雇用期間を定めずに雇用されている者をいう。パートタイムは除く。
 「労働者過不足判断D.I.」とは、「不足」と回答した事業所の割合から「過剰」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。
 グラフ横軸の「2」は2月1日現在、「5」は5月1日現在、「8」は8月1日現在、「11」は11月1日現在の状況を示す。
 網掛け部分は内閣府の景気基準日付(四半期基準日付)による景気後退期を示す(平成30年IV期～令和2年II期は、暫定的な景気の山・谷を設定)。
 無回答を除いた集計による。

第6図 雇用調整実施事業所割合の推移（複数回答）（調査産業計・実績）



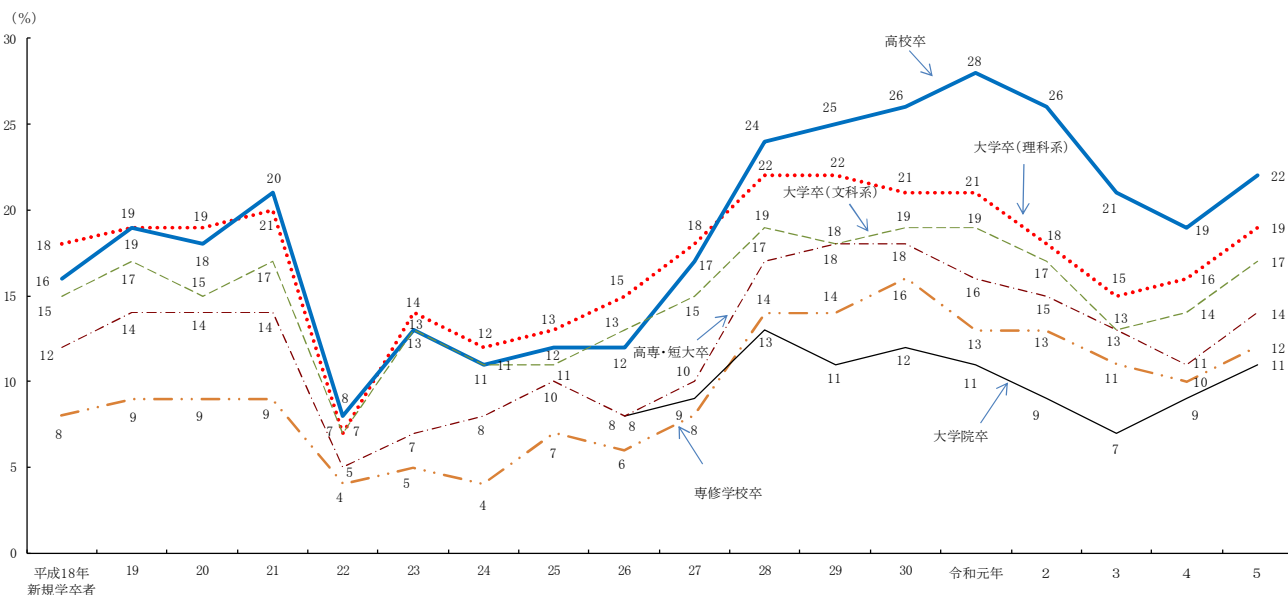
注:ローマ数字は四半期(I:1~3月、II:4~6月、III:7~9月、IV:10~12月)を示す。
 網掛け部分は内閣府の景気基準日付(四半期基準日付)による景気後退期を示す(平成30年IV期～令和2年II期は、暫定的な景気の山・谷を設定)。
 無回答を「実施していない又は予定がない」と回答したとみなして集計している。

第7図 中途採用の実績がある事業所割合の推移（調査産業計・実績）



注：ローマ数字は四半期（Ⅰ：1～3月、Ⅱ：4～6月、Ⅲ：7～9月、Ⅳ：10～12月）を示す。
 網掛け部分は内閣府の景気基準日付（四半期基準日付）による景気後退期を示す（平成30年Ⅳ期～令和2年Ⅱ期は、暫定的な景気の山・谷を設定）。
 無回答を除いた集計による。

第8図 新規学卒採用予定者数の学歴別増加事業所割合の推移（調査産業計）



注：「本年は採用しておらず次年も採用しない*及び無回答を除いた集計による。
 (*令和4年調査の場合は、「令和4年は採用しておらず令和5年も採用しない」)
 学歴区分については、大学卒(大学卒(文科系)、大学卒(理科系))に大学院卒を含めていたが、大学院進学者が増加したことから、平成25年調査より大学院卒を分離し、調査・集計した。そのため、平成24年調査以前の大学卒(大学卒(文科系)、大学卒(理科系))との数値の比較は、注意を要する。(なお、平成25年調査結果(平成26年)は、大学院卒8%、高専・短大卒8%とグラフが重なっている。)
 グラフ横軸の年は、何年の新規学卒者であるかを示す。(令和4年調査の場合は、「令和5年新規学卒者」)

VI 付属統計表

第1表 生産・売上額等の対前期増減理由別事業所割合

(単位：%)

期間、産業、企業規模	計	増加				ほぼ同じ	減少				
		小計	主として 季節的要 因による	季節的要 因もある が、それ に加えて 景気の変 動による	主として 景気の変 動による		小計	主として 季節的要 因による	季節的要 因もある が、それ に加えて 景気の変 動による	主として 景気の変 動による	
令和4年1～3月 実績	調査産業計	100	23 (100)	(54)	(24)	(22)	39	37 (100)	(44)	(32)	(24)
	1,000人以上	100	23 (100)	(55)	(26)	(19)	40	37 (100)	(51)	(32)	(18)
	300～999人	100	26 (100)	(56)	(22)	(22)	39	34 (100)	(44)	(33)	(23)
	100～299人	100	22 (100)	(50)	(29)	(21)	40	38 (100)	(47)	(27)	(26)
	30～99人	100	23 (100)	(55)	(18)	(27)	38	39 (100)	(32)	(35)	(33)
	建設業	100	34 (100)	(86)	(12)	(3)	42	24 (100)	(23)	(43)	(34)
	製造業	100	27 (100)	(39)	(21)	(40)	39	34 (100)	(40)	(24)	(37)
	1,000人以上	100	24 (100)	(48)	(16)	(36)	47	29 (100)	(47)	(19)	(34)
	300～999人	100	33 (100)	(39)	(22)	(38)	37	30 (100)	(43)	(21)	(36)
	100～299人	100	22 (100)	(31)	(32)	(37)	38	40 (100)	(46)	(22)	(32)
	30～99人	100	28 (100)	(34)	(16)	(50)	34	37 (100)	(24)	(31)	(45)
	消費関連業種	100	17 (100)	(56)	(31)	(13)	30	52 (100)	(55)	(32)	(13)
	素材関連業種	100	26 (100)	(40)	(23)	(37)	37	38 (100)	(37)	(21)	(42)
	機械関連業種	100	32 (100)	(32)	(17)	(51)	46	22 (100)	(21)	(14)	(65)
	情報通信業	100	51 (100)	(63)	(17)	(21)	36	13 (100)	(56)	(11)	(33)
	運輸業，郵便業	100	12 (100)	(32)	(36)	(32)	32	56 (100)	(43)	(31)	(26)
	卸売業，小売業	100	22 (100)	(51)	(40)	(9)	31	47 (100)	(51)	(39)	(11)
	卸売業	100	31 (100)	(56)	(33)	(12)	32	37 (100)	(58)	(23)	(19)
	小売業	100	17 (100)	(45)	(48)	(7)	29	54 (100)	(47)	(45)	(7)
	金融業，保険業	100	11 (100)	(30)	(60)	(10)	74	16 (100)	(36)	(43)	(21)
不動産業，物品賃貸業	100	36 (100)	(66)	(18)	(16)	44	20 (100)	(32)	(36)	(32)	
学術研究，専門・技術サービス業	100	44 (100)	(80)	(12)	(8)	38	18 (100)	(50)	(30)	(20)	
宿泊業，飲食サービス業	100	17 (100)	(30)	(45)	(25)	22	61 (100)	(44)	(40)	(16)	
生活関連サービス業，娯楽業	100	17 (100)	(50)	(25)	(25)	39	44 (100)	(62)	(19)	(19)	
医療，福祉	100	16 (100)	(84)	(10)	(6)	50	33 (100)	(48)	(34)	(17)	
サービス業(他に分類されないもの)	100	26 (100)	(58)	(30)	(12)	43	31 (100)	(38)	(33)	(30)	
令和4年4～6月 実績見込	調査産業計	100	27 (100)	(48)	(31)	(22)	49	24 (100)	(47)	(28)	(25)
	1,000人以上	100	29 (100)	(46)	(34)	(20)	49	23 (100)	(54)	(25)	(21)
	300～999人	100	27 (100)	(47)	(28)	(25)	52	22 (100)	(58)	(20)	(23)
	100～299人	100	27 (100)	(51)	(28)	(21)	49	24 (100)	(38)	(33)	(28)
	30～99人	100	25 (100)	(48)	(28)	(24)	45	30 (100)	(37)	(33)	(30)
	建設業	100	12 (100)	(45)	(50)	(5)	43	45 (100)	(58)	(23)	(19)
	製造業	100	30 (100)	(35)	(26)	(39)	49	21 (100)	(39)	(31)	(31)
	1,000人以上	100	29 (100)	(31)	(25)	(44)	52	19 (100)	(49)	(27)	(24)
	300～999人	100	29 (100)	(31)	(26)	(44)	53	18 (100)	(49)	(24)	(27)
	100～299人	100	31 (100)	(47)	(25)	(29)	48	21 (100)	(30)	(39)	(31)
	30～99人	100	30 (100)	(32)	(27)	(41)	45	26 (100)	(30)	(32)	(38)
	消費関連業種	100	38 (100)	(56)	(36)	(7)	38	24 (100)	(59)	(25)	(16)
	素材関連業種	100	24 (100)	(44)	(20)	(35)	58	18 (100)	(40)	(26)	(35)
	機械関連業種	100	29 (100)	(13)	(20)	(67)	50	21 (100)	(26)	(37)	(37)
	情報通信業	100	11 (100)	(57)	(-)	(43)	52	37 (100)	(71)	(13)	(15)
	運輸業，郵便業	100	37 (100)	(47)	(30)	(23)	44	19 (100)	(24)	(37)	(39)
	卸売業，小売業	100	33 (100)	(51)	(42)	(7)	41	26 (100)	(40)	(37)	(23)
	卸売業	100	29 (100)	(56)	(35)	(8)	41	30 (100)	(53)	(29)	(18)
	小売業	100	35 (100)	(48)	(46)	(6)	41	23 (100)	(29)	(44)	(27)
	金融業，保険業	100	7 (100)	(29)	(71)	(-)	85	7 (100)	(29)	(14)	(57)
不動産業，物品賃貸業	100	13 (100)	(50)	(29)	(21)	61	26 (100)	(68)	(14)	(18)	
学術研究，専門・技術サービス業	100	16 (100)	(69)	(23)	(8)	37	47 (100)	(84)	(7)	(9)	
宿泊業，飲食サービス業	100	46 (100)	(31)	(40)	(29)	38	15 (100)	(61)	(28)	(11)	
生活関連サービス業，娯楽業	100	46 (100)	(60)	(28)	(12)	38	16 (100)	(61)	(17)	(22)	
医療，福祉	100	19 (100)	(69)	(23)	(9)	57	24 (100)	(50)	(33)	(17)	
サービス業(他に分類されないもの)	100	23 (100)	(66)	(24)	(10)	49	28 (100)	(44)	(17)	(39)	
令和4年7～9月 実績見込	調査産業計	100	26 (100)	(53)	(27)	(20)	60	14 (100)	(41)	(30)	(28)
	1,000人以上	100	31 (100)	(57)	(26)	(16)	56	13 (100)	(41)	(33)	(26)
	300～999人	100	26 (100)	(46)	(29)	(25)	60	13 (100)	(48)	(30)	(22)
	100～299人	100	24 (100)	(49)	(27)	(23)	65	11 (100)	(49)	(31)	(20)
	30～99人	100	20 (100)	(53)	(27)	(20)	62	18 (100)	(31)	(27)	(42)
	建設業	100	25 (100)	(73)	(23)	(4)	62	13 (100)	(35)	(27)	(38)
	製造業	100	27 (100)	(42)	(23)	(35)	60	13 (100)	(44)	(29)	(26)
	1,000人以上	100	30 (100)	(44)	(24)	(32)	61	9 (100)	(59)	(35)	(5)
	300～999人	100	27 (100)	(36)	(24)	(40)	58	15 (100)	(40)	(34)	(27)
	100～299人	100	28 (100)	(47)	(22)	(31)	58	14 (100)	(64)	(16)	(20)
	30～99人	100	23 (100)	(42)	(20)	(38)	62	15 (100)	(23)	(32)	(45)
	消費関連業種	100	34 (100)	(58)	(27)	(15)	45	22 (100)	(63)	(28)	(9)
	素材関連業種	100	24 (100)	(50)	(26)	(24)	64	12 (100)	(41)	(26)	(33)
	機械関連業種	100	26 (100)	(27)	(18)	(55)	66	9 (100)	(22)	(33)	(44)
	情報通信業	100	32 (100)	(71)	(13)	(16)	60	9 (100)	(45)	(36)	(18)
	運輸業，郵便業	100	33 (100)	(52)	(29)	(19)	52	15 (100)	(27)	(33)	(39)
	卸売業，小売業	100	31 (100)	(55)	(36)	(10)	49	20 (100)	(31)	(39)	(29)
	卸売業	100	29 (100)	(55)	(30)	(15)	54	17 (100)	(48)	(21)	(31)
	小売業	100	33 (100)	(54)	(39)	(7)	45	22 (100)	(23)	(49)	(28)
	金融業，保険業	100	6 (100)	(50)	(50)	(-)	84	10 (100)	(33)	(22)	(44)
不動産業，物品賃貸業	100	17 (100)	(50)	(33)	(17)	69	15 (100)	(56)	(19)	(25)	
学術研究，専門・技術サービス業	100	20 (100)	(84)	(13)	(3)	66	14 (100)	(63)	(17)	(21)	
宿泊業，飲食サービス業	100	50 (100)	(52)	(34)	(14)	41	9 (100)	(64)	(18)	(18)	
生活関連サービス業，娯楽業	100	16 (100)	(43)	(39)	(17)	56	28 (100)	(71)	(20)	(10)	
医療，福祉	100	15 (100)	(54)	(32)	(14)	76	9 (100)	(50)	(33)	(17)	
サービス業(他に分類されないもの)	100	24 (100)	(60)	(17)	(23)	62	14 (100)	(39)	(17)	(44)	

注：無回答を除いて集計している。

第3-2表 職種別労働者の過不足状況と労働者過不足判断D. I. (調査産業計)

(単位：％、ポイント)

調査年月	管理			事務			専門・技術			販売			サービス			輸送・機械運転			技能工			単純工		
	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.
令和3年 5月	11	3	8	15	5	10	40	2	38	22	3	19	28	2	26	23	2	21	29	3	26	28	6	22
8	11	3	8	12	5	7	37	2	35	23	3	20	27	2	25	22	2	20	30	3	27	29	5	24
11	13	3	10	15	4	11	42	1	41	23	4	19	30	1	29	21	2	19	33	3	30	32	3	29
令和4年 2	14	3	11	17	4	13	43	1	42	25	2	23	32	1	31	24	1	23	35	1	34	33	3	30
5	15	3	12	17	3	14	42	1	41	26	2	24	30	1	29	25	2	23	35	2	33	33	3	30

注：職種については付属統計表第5表を参照。

第4表 産業、企業規模別欠員率

(単位：％)

産業、企業規模	欠員率										
	令和元年	令和2年				令和3年				令和4年	
	11月調査	2月調査	5月調査	8月調査	11月調査	2月調査	5月調査	8月調査	11月調査	2月調査	5月調査
調査産業計	2.8	2.8	2.2	2.0	2.1	2.3	2.4	2.2	2.3	2.8	2.9
1,000人以上	1.8	2.0	1.6	1.4	1.5	1.9	2.0	1.7	1.8	2.2	2.3
300～999人	2.2	2.0	1.9	1.7	1.7	2.2	2.2	2.1	2.2	2.4	2.7
100～299人	3.7	3.6	2.7	2.7	2.8	2.3	2.6	2.9	2.5	3.2	3.3
30～99人	4.4	4.4	3.1	2.9	2.8	3.2	3.0	2.6	3.2	3.7	3.4
建設業	2.8	3.3	2.4	2.3	2.3	2.6	2.5	2.2	2.5	2.6	2.9
製造業	1.5	1.5	1.0	0.9	1.0	1.2	1.3	1.5	1.8	2.0	2.0
1,000人以上	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7	1.0	1.1	1.4	1.7	1.5	1.6
300～999人	1.4	1.1	0.7	0.5	0.5	1.1	1.2	1.3	1.6	1.7	1.6
100～299人	1.5	2.0	1.1	1.1	1.4	1.2	1.3	1.5	1.5	2.1	1.9
30～99人	2.6	2.3	1.8	1.5	1.8	1.6	1.6	1.8	2.5	3.0	3.0
消費関連業種	2.4	2.5	1.6	1.6	1.7	1.4	1.8	1.9	2.1	2.3	2.2
素材関連業種	1.7	1.5	0.9	0.9	1.0	1.1	1.0	1.4	1.4	1.8	1.9
機械関連業種	0.9	0.9	0.8	0.5	0.7	1.1	1.2	1.3	1.9	2.0	2.0
情報通信業	1.6	1.7	1.2	1.0	1.0	1.0	1.6	1.6	1.7	1.8	2.1
運輸業，郵便業	6.0	5.8	4.5	4.9	5.4	3.5	4.1	4.1	3.5	4.5	4.2
卸売業，小売業	2.0	2.5	2.2	1.7	1.4	1.7	1.9	1.5	1.7	2.0	2.0
卸売業	1.4	1.3	0.9	1.1	0.7	1.0	1.2	0.9	1.2	1.5	1.3
小売業	2.4	3.3	3.0	2.1	1.9	2.2	2.4	1.9	2.0	2.4	2.4
金融業，保険業	0.8	0.5	0.5	0.6	0.5	0.3	0.5	0.3	0.5	0.5	0.5
不動産業，物品賃貸業	2.9	2.4	2.0	1.8	1.6	1.3	1.3	1.2	1.0	1.4	1.4
学術研究，専門・技術サービス業	2.3	1.7	1.1	1.2	1.9	1.8	1.4	1.5	1.4	1.7	1.9
宿泊業，飲食サービス業	4.9	4.5	3.3	2.6	2.7	3.1	4.3	2.8	3.5	4.3	4.6
生活関連サービス業，娯楽業	3.9	4.2	2.4	2.3	2.2	2.7	2.4	2.3	2.7	2.9	3.0
医療，福祉	2.3	2.3	2.2	2.0	2.3	2.9	2.6	2.6	2.6	2.8	2.9
サービス業(他に分類されないもの)	5.1	4.8	3.6	3.3	3.1	4.6	4.0	3.6	3.6	4.9	5.2

注：各調査は、調査月の1日現在（例：令和4年5月調査の場合、令和4年5月1日現在）の数値である。

第5表 労働者の過不足程度別事業所割合（令和4年5月1日現在）

（単位：％）

雇用形態・職種	調査産業計					建設業					製造業					情報通信業									
	不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰						
	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰					
常用労働者	5	39	52	3	0	7	40	51	1	-	5	39	51	5	-	6	37	55	1	-					
正社員等	5	36	56	4	0	8	42	49	1	-	4	38	53	5	-	7	37	54	2	-					
臨時	2	14	82	2	0	4	5	90	1	-	2	15	81	2	0	-	6	94	-	-					
パートタイム	3	27	68	2	0	2	4	93	1	-	2	19	77	2	-	1	8	90	1	-					
派遣労働者	2	12	81	5	1	1	6	90	3	-	3	19	72	5	1	2	9	87	3	-					
管理	1	15	82	3	0	1	16	80	3	-	-	16	81	3	0	1	18	78	2	-					
事務	1	16	80	3	0	0	13	85	2	-	0	14	81	4	-	-	18	78	3	-					
専門・技術	6	36	57	1	-	11	47	42	-	-	5	33	61	1	-	10	40	48	1	-					
販売	2	24	73	1	0	5	20	75	-	-	2	20	78	1	0	3	26	71	-	-					
サービス	4	26	68	1	-	4	7	89	-	-	1	8	90	1	-	-	10	90	-	-					
輸送・機械運転	5	20	74	1	0	10	19	69	2	-	1	9	87	2	-	-	-	100	-	-					
技能工	5	30	63	2	0	13	43	42	2	-	6	39	53	2	-	-	-	100	-	-					
単純工	5	28	64	3	0	15	28	56	-	2	6	33	56	5	-	-	-	100	-	-					
雇用形態・職種	運輸業、郵便業					卸売業、小売業					金融業、保険業					不動産業、物品賃貸業									
	不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰						
	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰					
常用労働者	10	42	46	2	-	2	28	67	3	0	-	13	85	2	-	1	26	70	3	-					
正社員等	11	40	48	2	-	2	20	72	5	0	1	11	86	2	-	-	30	67	3	-					
臨時	5	16	79	-	-	1	10	88	1	-	-	5	95	-	-	-	5	95	-	-					
パートタイム	3	30	65	2	-	4	30	65	1	-	-	8	92	1	-	1	15	81	3	-					
派遣労働者	1	8	88	2	1	1	2	93	3	1	-	1	99	-	-	-	4	90	6	-					
管理	1	21	76	2	1	1	9	85	5	-	-	5	94	2	-	-	15	84	2	-					
事務	-	20	75	4	1	0	11	85	3	1	-	10	87	3	-	-	17	80	3	-					
専門・技術	-	15	85	-	-	5	21	73	1	-	-	18	83	-	-	1	27	68	4	-					
販売	-	11	89	-	-	3	32	62	3	0	4	21	75	-	-	-	32	65	3	-					
サービス	-	18	82	-	-	3	17	77	3	-	-	8	92	-	-	2	24	73	2	-					
輸送・機械運転	18	48	34	1	-	1	11	86	1	1	-	-	100	-	-	-	7	93	-	-					
技能工	2	22	76	-	-	-	10	88	-	2	-	-	100	-	-	4	12	84	-	-					
単純工	2	33	66	-	-	2	13	82	2	1	-	-	100	-	-	4	4	92	-	-					
雇用形態・職種	学術研究、専門・技術サービス業					宿泊業、飲食サービス業					生活関連サービス業、娯楽業					医療、福祉									
	不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰						
	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰					
常用労働者	2	41	56	1	-	7	41	47	5	1	6	39	49	6	-	5	50	42	3	-					
正社員等	3	43	54	1	-	2	27	67	4	1	3	31	59	7	-	5	49	43	2	-					
臨時	1	7	91	1	-	2	34	60	4	-	2	13	81	5	-	-	17	81	3	-					
パートタイム	2	8	90	1	-	8	45	44	3	-	8	34	51	7	-	2	34	61	2	-					
派遣労働者	1	6	92	2	-	-	12	80	5	2	2	4	90	4	-	-	10	81	9	1					
管理	-	10	89	1	-	2	20	75	4	-	-	14	83	3	-	1	11	87	1	-					
事務	1	14	82	4	-	2	19	76	4	-	-	15	79	6	-	1	22	75	2	-					
専門・技術	6	44	49	1	-	11	32	57	-	-	6	19	70	5	-	7	48	43	2	-					
販売	-	35	64	-	2	3	37	54	6	-	-	11	81	7	-	-	3	97	-	-					
サービス	-	3	95	3	-	8	43	46	3	-	8	39	50	4	-	7	47	45	-	-					
輸送・機械運転	-	11	89	-	-	-	14	81	5	-	-	14	83	3	-	-	6	94	-	-					
技能工	3	18	77	3	-	-	6	94	-	-	3	10	87	-	-	-	4	96	-	-					
単純工	3	6	90	-	-	-	6	94	-	-	5	23	66	7	-	-	7	93	-	-					
雇用形態・職種	サービス業 (他に分類されないもの)					〔職種〕 ※第3-2表、第5表共通 管理 --- 課以上の組織の管理に従事する者 事務 --- 課長等管理職の指導、監督をうけて事務に従事する者(電話応接事務員を含む) 専門・技術 --- 高度の専門的知識を応用し、技術的な業務、研究等に従事する者 販売 --- 商品、証券などの売買・営業、保険外交などに従事する者 サービス --- 調理・接客・給仕など個人に対するサービスに従事する者 輸送・機械運転 --- 鉄道、自動車などで運転に従事する者及び車掌、並びに位置機関・機械及び建設機械を操作する仕事に従事する者 技能工 --- 原材料の加工、各種機械器具の組み立て、修理、印刷、製本、建設機械を用いない建設作業などに従事する者のうち高度の熟練、判断力、責任を要する作業を行う者 単純工 --- 上記「技能工」と同じ作業に従事しているが技能などの修得を要しない簡単な作業、単純な筋肉労働に従事する者																			
	不足		適当	過剰																					
	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰																				
常用労働者	6	43	48	3	-																				
正社員等	7	33	57	4	-																				
臨時	9	19	69	3	-																				
パートタイム	8	37	53	1	1																				
派遣労働者	4	17	75	4	-																				
管理	3	18	77	2	-																				
事務	4	15	78	4	-																				
専門・技術	10	37	54	-	-																				
販売	-	30	70	-	-																				
サービス	9	38	52	1	-																				
輸送・機械運転	-	28	72	-	-																				
技能工	5	32	62	-	-																				
単純工	14	37	49	-	-																				

注：無回答を除いて集計している。

第7表 令和5年新規学卒採用予定者数の対前年増減区分別事業所割合（令和4年5月1日現在）

（単位：％）

学歴、産業			計	増加	ほぼ同じ	減少	未定	本社等でしか回答できない
高校卒	調査産業計	100	22 (19)	26 (24)	2 (5)	30 (33)	19 (20)	
	建設業	100	30 (25)	30 (31)	1 (5)	21 (21)	18 (17)	
	製造業	100	35 (26)	33 (35)	3 (6)	20 (25)	9 (9)	
	情報通信業	100	4 (13)	27 (13)	2 (-)	47 (43)	20 (30)	
	運輸業，郵便業	100	19 (15)	13 (12)	3 (5)	31 (35)	35 (33)	
	卸売業，小売業	100	13 (14)	20 (16)	1 (4)	27 (28)	39 (38)	
	金融業，保険業	100	6 (2)	22 (20)	1 (1)	29 (32)	41 (44)	
	不動産業，物品賃貸業	100	5 (7)	9 (15)	- (-)	56 (51)	30 (28)	
	学術研究，専門・技術サービス業	100	15 (16)	21 (27)	3 (7)	33 (34)	29 (16)	
	宿泊業，飲食サービス業	100	38 (14)	13 (17)	- (4)	31 (44)	18 (21)	
	生活関連サービス業，娯楽業	100	26 (18)	18 (16)	1 (1)	35 (38)	21 (27)	
医療，福祉	100	9 (16)	32 (22)	3 (5)	49 (48)	7 (9)		
サービス業（他に分類されないもの）	100	19 (19)	22 (13)	1 (-)	34 (44)	24 (24)		
高専・短大卒	調査産業計	100	14 (11)	24 (23)	1 (3)	37 (39)	24 (24)	
	建設業	100	16 (18)	33 (24)	- (3)	28 (32)	24 (23)	
	製造業	100	19 (15)	25 (24)	1 (2)	35 (36)	20 (22)	
	情報通信業	100	8 (12)	39 (32)	1 (7)	37 (34)	16 (16)	
	運輸業，郵便業	100	8 (5)	4 (8)	1 (2)	43 (44)	44 (42)	
	卸売業，小売業	100	9 (7)	16 (18)	- (2)	34 (35)	40 (38)	
	金融業，保険業	100	4 (2)	27 (17)	1 (1)	32 (41)	37 (39)	
	不動産業，物品賃貸業	100	10 (8)	10 (18)	- (1)	54 (49)	27 (24)	
	学術研究，専門・技術サービス業	100	14 (13)	25 (27)	2 (6)	36 (34)	23 (20)	
	宿泊業，飲食サービス業	100	30 (10)	15 (28)	- (8)	36 (38)	19 (16)	
	生活関連サービス業，娯楽業	100	5 (4)	14 (9)	- (7)	52 (48)	29 (32)	
医療，福祉	100	14 (14)	36 (33)	2 (2)	41 (42)	7 (9)		
サービス業（他に分類されないもの）	100	13 (10)	18 (17)	- (4)	39 (46)	30 (23)		
大学卒（文科系）	調査産業計	100	17 (14)	26 (24)	2 (5)	31 (32)	24 (24)	
	建設業	100	16 (14)	30 (28)	2 (5)	27 (28)	25 (24)	
	製造業	100	19 (15)	27 (24)	4 (5)	28 (30)	23 (27)	
	情報通信業	100	22 (18)	49 (49)	3 (7)	16 (13)	11 (13)	
	運輸業，郵便業	100	14 (8)	7 (8)	1 (4)	35 (39)	43 (41)	
	卸売業，小売業	100	16 (14)	22 (19)	3 (6)	26 (28)	33 (33)	
	金融業，保険業	100	9 (6)	41 (31)	2 (11)	19 (20)	30 (31)	
	不動産業，物品賃貸業	100	19 (13)	28 (40)	4 (4)	32 (28)	18 (15)	
	学術研究，専門・技術サービス業	100	19 (18)	29 (30)	1 (8)	26 (25)	24 (18)	
	宿泊業，飲食サービス業	100	32 (9)	14 (32)	- (4)	34 (38)	21 (17)	
	生活関連サービス業，娯楽業	100	14 (10)	15 (8)	1 (9)	45 (44)	26 (30)	
医療，福祉	100	11 (18)	34 (30)	1 (2)	46 (41)	8 (9)		
サービス業（他に分類されないもの）	100	17 (15)	20 (19)	1 (5)	32 (39)	30 (22)		
大学卒（理科系）	調査産業計	100	19 (16)	25 (25)	2 (4)	30 (31)	23 (24)	
	建設業	100	28 (23)	29 (30)	- (3)	21 (22)	22 (22)	
	製造業	100	27 (23)	25 (26)	4 (5)	24 (24)	20 (23)	
	情報通信業	100	24 (20)	48 (49)	2 (5)	15 (13)	11 (13)	
	運輸業，郵便業	100	11 (5)	6 (8)	1 (2)	39 (41)	44 (44)	
	卸売業，小売業	100	14 (14)	21 (17)	2 (5)	29 (29)	34 (36)	
	金融業，保険業	100	6 (8)	35 (26)	1 (5)	25 (28)	32 (33)	
	不動産業，物品賃貸業	100	16 (9)	25 (32)	1 (3)	39 (38)	18 (17)	
	学術研究，専門・技術サービス業	100	32 (26)	34 (34)	1 (8)	16 (20)	17 (13)	
	宿泊業，飲食サービス業	100	24 (8)	11 (32)	2 (2)	41 (41)	23 (17)	
	生活関連サービス業，娯楽業	100	9 (7)	11 (7)	1 (9)	52 (46)	27 (31)	
医療，福祉	100	14 (14)	36 (32)	1 (2)	41 (43)	8 (10)		
サービス業（他に分類されないもの）	100	17 (16)	15 (17)	1 (1)	35 (41)	31 (24)		
大学院卒	調査産業計	100	11 (9)	21 (21)	1 (2)	40 (42)	27 (27)	
	建設業	100	14 (12)	23 (18)	- (3)	37 (39)	27 (27)	
	製造業	100	15 (14)	23 (24)	3 (3)	35 (33)	24 (26)	
	情報通信業	100	21 (12)	45 (52)	1 (4)	20 (19)	12 (13)	
	運輸業，郵便業	100	3 (1)	5 (5)	1 (-)	43 (48)	49 (47)	
	卸売業，小売業	100	8 (5)	17 (17)	1 (1)	36 (37)	38 (40)	
	金融業，保険業	100	2 (2)	27 (18)	- (2)	34 (41)	36 (37)	
	不動産業，物品賃貸業	100	16 (7)	13 (26)	- (-)	51 (48)	20 (18)	
	学術研究，専門・技術サービス業	100	23 (20)	32 (31)	- (9)	26 (26)	20 (15)	
	宿泊業，飲食サービス業	100	10 (4)	8 (28)	- (-)	56 (49)	27 (19)	
	生活関連サービス業，娯楽業	100	5 (1)	10 (5)	- (3)	56 (57)	29 (34)	
医療，福祉	100	6 (7)	25 (20)	- (-)	58 (62)	11 (11)		
サービス業（他に分類されないもの）	100	9 (9)	16 (12)	- (2)	41 (50)	34 (27)		
専修学校卒	調査産業計	100	12 (10)	19 (19)	1 (2)	42 (43)	26 (27)	
	建設業	100	16 (18)	22 (16)	- (2)	36 (38)	26 (26)	
	製造業	100	12 (10)	18 (15)	2 (1)	45 (47)	24 (27)	
	情報通信業	100	13 (11)	38 (38)	2 (3)	32 (33)	15 (16)	
	運輸業，郵便業	100	4 (2)	4 (4)	1 (-)	43 (49)	48 (45)	
	卸売業，小売業	100	7 (3)	11 (15)	0 (2)	40 (38)	42 (43)	
	金融業，保険業	100	4 (-)	17 (11)	- (1)	39 (46)	39 (41)	
	不動産業，物品賃貸業	100	8 (9)	5 (15)	- (-)	62 (51)	26 (25)	
	学術研究，専門・技術サービス業	100	11 (8)	22 (21)	- (4)	40 (45)	27 (21)	
	宿泊業，飲食サービス業	100	22 (11)	9 (27)	- (3)	49 (41)	20 (17)	
	生活関連サービス業，娯楽業	100	4 (1)	10 (9)	- (4)	59 (52)	28 (33)	
医療，福祉	100	18 (17)	34 (30)	3 (2)	39 (42)	7 (9)		
サービス業（他に分類されないもの）	100	13 (8)	10 (15)	- (2)	42 (50)	35 (26)		

注：1) 令和5年新規学卒者の採用予定者数を令和4年新規学卒者の採用者数と比べた増減等についての事業所の割合である。
 2) 「令和4年は採用しておらず令和5年も採用しない」及び無回答を除いて集計した。
 3) ()は、令和3年5月調査の数値（令和3年5月1日現在）である。

Ⅶ 【参考表】地区別労働者の過不足状況

地区別の労働者の過不足状況について令和4年5月1日現在の状況で試算を行った。
しかし、一部の地区ではサンプル数が十分でなく誤差が大きくなるため、取扱いには注意を要する。

参考表 地区別労働者過不足状況と労働者過不足判断D. I.

(「不足」-「過剰」, 単位:%、ポイント)

地区 1)	正社員等労働者											
	令和3年						令和4年					
	8月調査 3)			11月調査 3)			2月調査 3)			5月調査 3)		
	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.
全国	34	5	29	38	5	33	43	4	39	41	4	37
北海道・東北 * 2)	35	4	31	37	3	34	38	1	37	41	2	39
関東	31	4	27	35	4	31	39	3	36	37	3	34
中部	38	6	32	39	5	34	48	4	44	42	5	37
うち東海	37	5	32	37	5	32	47	4	43	42	5	37
近畿	33	4	29	40	5	35	45	2	43	47	3	44
中国・四国 * 2)	33	6	27	40	9	31	44	6	38	44	4	40
九州・沖縄 * 2)	35	6	29	44	4	40	45	7	38	40	3	37

地区 1)	パートタイム労働者											
	令和3年						令和4年					
	8月調査 3)			11月調査 3)			2月調査 3)			5月調査 3)		
	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.
全国	24	4	20	27	3	24	29	3	26	30	2	28
北海道・東北 * 2)	27	5	22	27	4	23	27	4	23	37	1	36
関東	22	4	18	25	3	22	28	2	26	28	2	26
中部	25	4	21	26	3	23	29	2	27	28	2	26
うち東海	23	3	20	26	2	24	28	2	26	28	2	26
近畿	25	4	21	28	3	25	30	2	28	31	1	30
中国・四国 * 2)	19	4	15	23	3	20	28	5	23	32	4	28
九州・沖縄 * 2)	30	1	29	34	2	32	34	2	32	29	3	26

注: 無回答を除いて集計している。

1) 地区区分

北海道・東北	…	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	…	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部	…	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
うち東海	…	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	…	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国・四国	…	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九州・沖縄	…	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

2) *は、サンプルサイズが十分でない地区であることを示す。

3) 各調査は、調査月の1日現在(例: 令和4年5月調査の場合、令和4年5月1日現在)の数値である。